

## ワールドステイクラブの企画

### 久しぶり早めのウナギ 田端文士村へも散策

企画委員会

コロナ禍で見送りになっていた「肝吸い付きうな重」をやっと楽しむことができました。その後、田端文士村を散策し、その記念館も訪れました。

期 間：2022年6月21日（火）

費 用：3,000円（アルコールなど飲み物は別途）

集 合：午前11時45分 JR駒込駅北口改札出口

解 散：現地解散 午後3時頃

リーダー：

参加者：18名

この見るだけでも満足感いっぱいのおもてなしに、店のおやじの心意気を感じました。



#### リーダーから

（東京都豊島区）

駒込までご足労いただきありがとうございます。幹事としてお役目が果たせて一安心です。田端文士村記念館まで解説付き観光もできました。

「うなぎ」はいかがでしたか？大きくってうまかったですね！もとウナギ屋の息子として言わせていただければ、あのうな重で肝吸い付き3,000円はお買い得のような気がします。これで今年の夏も元気に過ごせそうですね。また来年もご参加ください。

#### 田端文士村散策

うな重と肝吸いでエネルギーチャージをした後、半時の散策をしました。この近くは、かつての田端文士村ですので、ゆるりと坂道をあがり文豪の作品を思い浮かべ、道筋の案内板を見て数々の文筆家の名前を思い出しました。綺羅星のごとくとはこのようなことをいうのでしょう。



文士村案内板 多士済々

#### 本命 うな重+肝吸い

待ちに待った「肝吸い付きうな重」を楽しみました。一昨年と同じ、駒込のウナギの老舗「都鳥」で堪能しました。味は折り紙付き、肝吸いもあり口福でした。当日はお店を借り切り、WSC会員のみで和気あいあいの会食でした。



#### 老舗「都鳥」 うな重

客席が18席の昔懐かしく落ち着いた雰囲気です。ウナギは丁寧な焼きとたれとの絶妙な仕上がり、そして肝吸い付きです。お重の蓋を開けると、大き目のウナギが2枚、端が重なりあって窮屈に並んでいました。食べ応えの期待が、胃袋にずきんと来ました。

## 田端文士村記念館 田端駅近く

芥川龍之介、小杉放庵、室生犀星、板谷波山など、田端を拠点にした文士・芸術家たちの作品資料の展示や講演会などのイベントが行われる場所です。大正から昭和にかけて、田端は「文士村」となりました。

訪問時には、芥川龍之介の展示があり、様々な交流の証の手紙など普段は目にすることがない事柄に出会いました。芥川龍之介が自宅の庭の木に登る動画映像があり、それが着物姿であることに驚きました。



田端文士村散策の面々

## ポプラ倶楽部 田端文芸村発祥の地



明治末に洋画家小杉放庵が、テニスコートを作り洋画家の社交場としました。その後、付近に陶芸家板谷波山、詩人室生犀星、小説家菊池寛などが移り住み、文芸村となりました。現在は、その跡地は保育園となり、正面入り口にその由緒を記した案内板がありました。

## サトウハチロー旧居跡地 田端駅近く



路地から大通りに出る角地に、この案内板がありました。彷彿とさせる面影なしですが……。ひそやかに、道行く人も特に目をとめるでもなく……。

## 日枝神社 ポプラ坂近く



散策の途中ポプラ坂の近くに、地元の守り神らしい風情の神社がありました。石段を登ると質素な社があり、コロナ退散、家内安全、健康長寿、ボケ防止・・・思いつくことをすべてお祈りしました。

## ルーツ発見

### 染井吉野発祥の里は駒込 駒込駅近くに



幕末から明治初めにかけて誕生したのが、ご存じ「染井吉野桜」だそうです。記念碑が駒込駅近くの公園にありました。

江戸時代の駒込は染井とよばれていたため、この地名から名づけられたそうです。

## 参加しました

### (東京都世田谷区)

うなぎの会に初めて参加させて頂きました。巣鴨、田端の駅名は知っていましたが、どんな街か全く知らず楽しみでした。坂道をどんどん下った処にあるお店を貸し切りで、いただいたうなぎは流石に美味しく完食いたしました。

田端の文士村には、興味をかきたてられました。世田谷文学館は勿論、横浜の神奈川文学館の会員になっている私としては、もう一度個人で田端文士村に行きたいと思っています。巣鴨の駅のそばに、ソメイヨシノの発祥の場所があると出発前に案内して下さり、感激致しました。しっかりカメラに収めました。

今回は、日頃1日の目標にしている歩数を越え、だいぶ歩いたようです。今後の外歩きの企画には、日程に支障がない限り参加したいと思っています。

### (千葉県船橋市)

美味しい鰻を食しエネルギーを十分に補給、蒸し暑い中を田端文士村記念館までの散策です。

先月軽井沢でゴルフ同好会を楽しんでしばらくして、疲れからか股関節に痛みが出て、歩くのも不自由となり行動予定をキャンセルせざるを得ず、困りました。1ヶ月余り、整形外科や針灸整体に通い、治療に努めてようやく今回の企画に参加できました。

散歩途中の日枝神社の鳥居に興味をもちました。

山王鳥居と称し、明神鳥居の上部に三角形の破風(屋根)が乗った形をしています。仏教の胎藏界・金剛界と、神道の合一を表していると考えられています。神仏習合の信仰です。



(静岡県静岡市)

美味しいうなぎを食しながら、会員の皆様と再会できる機会かと参加させていただきました。

私が幼少時の戦前には石神井公園に住んでいて、その当時母方の親戚が駒込におりました。歩きながら母が私達兄弟を引き連れて、この駒込へ遊びに行ったことを懐かしく思い出しました。街のイメージは、当然のことながらすっかり変貌していました。坂道や生け垣、樹木が繁茂していた記憶がありましたが、空襲を受けてしまってすべて風景が変わってしまいました。この風景を見ながら、現在のウクライナ国民の心情も思い浮かべました。

(東京都新宿区)

2年前より、鰻が大きく育ったように思いました。相席の方々から、ポツリポツリ鰻の思い出をうかがいました。私が子供の頃には、町の鰻屋さんの重箱は漆塗りのはげかかってなんとも言えない風合いでした。そんなお話ができる方はそうはいません。

子どものころ、護国寺、鳩山御殿、六義園、小石川植物園、巢鴨のお地蔵さんのあたりで遊びましたので、駒込は懐かしい場所です。次回も是非とも参加したいと楽しみにしています。

(東京都杉並区)

昼食に少し味の濃い「うな重」を、駒込の名店「都鳥」でいただいた後、田端文士村をみんなで歩き楽しい時間を過ごしました。

「都鳥」で「うな重」を堪能してお店を出て、揃ってぶらぶら歩きを始めました。散策の終わりに、田端文士村の多くの著名人のいろいろな作品を紹介する文士村記念館を訪れました。芥川龍之介を中心とした文士たちの繋がりも、紹介していました。芥川の「蜘蛛の糸」は若い時に読んで、とても強い印象を受け、今の人生でもこのことは生かしています。菊池寛の「父帰る」は映画にもなり、父として男としての孤独感は今でも覚えています。記念館を訪れての強い印象は、芥川の自殺です。他人を殺せば殺人罪になるし、自分で自分の命を断てば、同じ重い罪になると思っています。

田端文士村の散策で、水上勉先生との連載のことで京都の先斗町で飲んだこと、杉本苑子さんと「奥の細道」を2年の歳月をかけて歩いて連載となったことなどを懐かしく思い出しました。この連載を最後に、僕の編集者としての仕事は了えることとなります。

この日の散策は朝から天気も良く、みんなで歩いた楽しい時間でした。

9月19日の勝手散策人

## 正岡子規 菩提寺 大龍寺



子規の菩提寺の大龍寺は、駒込から徒歩10分ほどの所にありました。墓は本堂の左手を入りさらに左手の奥の方、隣接の中学校との境近くです。

命日9月17日に近いので、花が手向けてありました。墓石の「子規居士之墓」の字は、陸羯南（正岡子規が新聞記者として働いていた新聞「日本」の社主）の筆跡だそうです。

子規の命日は「糸瓜（へちま）忌」、雅号から「獺祭忌」とも言われています。9月17日の絶句三句、

「糸瓜咲て痰のつまりし佛かな」  
「痰一斗糸瓜の水も間にあはず」  
「をとゝひのへちまの水も取らざりき」

墓の横に墓碑があり、その板面には糸瓜の模様が刻んでありました。



中秋の名月は旧暦8月15日で、新暦では本

年2022年の9月10日になります。この晩の糸瓜水には、薬となるとの言い伝えがあり、この薬効に望みをかけていました。子規は結核でさらに脊椎を侵し、病臥で2年を過ごしたのです。極限の苦しみを強靱な精神をもって耐え、最後まで途切れずに口述筆記で随筆を発表し、自己価値創造に取り組んだこと、頭が下がります。

元気な頃の句、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」鮮やかな柿の色彩、それを際立たせる古都のしっとりとした風情を、この句を見た途端一気に浮かんできます。この大龍寺にも柿があったとか・・・。

## 芥川龍之介 旧居跡看板

大龍寺から徒歩10分、ほぼ田端駅の近くに芥川龍之介の旧居跡があり、ここにも足を延ばしました。



住宅密集地の細街路の角に、それを示す殺風景な掲示板が立っているのみでした。学校の教科書でおなじみの、「羅生門」、「鼻」、「蜘蛛の糸」、「トロッコ」などの著者は、もはや忘れられたようです。